

外傷の治療・経過観察の流れ												
経過	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	14日目	1か月目	2か月目	3か月目	1年
達成目標	口腔状況、今後の処置について理解し、同意している。		発熱がなくなる。				口腔のセルフケアができている。	皮膚や粘膜の異常がなくなる。	定期的な歯科受診ができている。	定期的に受診し、合併症の有無のチェックを受けている。		
治療	まずは日常生活に戻るよう応急処置をします。 必要に応じて止血や縫合をします。歯を元の位置にもどし、ゆるれる場合は固定します。折れた部分を抜い、歯髄を保護・治療します。		縫合した糸をとります。					歯の固定を外します。歯根破折があった場合は、2か月以上固定します。歯髄の炎症や壊死を確認した場合は、歯内療法（歯髄の治療）を行います。	固定を外します。→ スポーツによる外傷を防ぐために、マウスガードの装着をおすすめします。（1か月目～2か月目）			最低1年間は、定期管理が必要です。外傷を原因とする異常な所見が多く発見される時期です。歯髄保存療法後は5年間の経過観察が必要です。歯根破折がある場合は、3年間の定期管理が必要です。乳歯の外傷は永久歯が生え変わるまで、最低年2回定期検査を受けましょう。
レントゲン	○							○	○	○	○	検診ごとに必要があれば撮影
処置・検査	口腔内全体を診査し、受傷部位のX線写真撮影を行います。口腔状況に応じた処置を行います。腫脹部（唇、顔面など）は氷水などで冷シップをします。		処置後の受傷部位の確認を行います。		歯の変色が見れることがありますが、後に消滅することがあります。			歯根破折や歯槽骨吸収の確認を行います。その結果次第で、固定を終了します。	歯根吸収が観察され始めます。	歯髄の異常が出やすい時期です。場合によっては歯内療法が必要になります。レントゲンによる歯髄の検査が必要になります。	歯根の破折部分の治療の確認や、歯髄の状態を確認します。	
薬剤	抗生物質や鎮痛剤が処方されます。処方を受けたお薬は指示通り飲んでください。飲んでおなかをこわしたり、じんましんが出るなどの副作用が出た場合は、お薬をやめて、ご連絡ください。											
口腔ケア（保護者）	お口を清潔に保つことが重要です。 食後、寝る前に、うがい薬（または緑茶）をほぐした綿棒につけて歯を拭いてください。食後や寝る前は、うがい薬をつけた歯ブラシで歯磨きを丁寧にします。食べ物が詰まりやすい部分・掃除しにくい部分は、ご相談ください。		食後や寝る前は、うがい薬をつけた歯ブラシで歯磨きを丁寧にします。固定した部分は、歯肉の中に汚れが入らないように、歯間ブラシやタフト型ブラシ、デンタルフロスなどの補助清掃用具も使用し、丁寧に磨きます。						仕上げみがきを継続してください。			
活動安静度	激しい運動は控えてください。体育は見学をおすすめします。夜は早めに寝ましょう。											
食事	食べにくいときは、やわらかいごはん・おかゆ・離乳食・麺類・牛乳・ヨーグルト・チーズ・アイスクリーム・卵・バナナなど摂取しましょう。 噛むと痛いときや、食べるとしみるときは、ご連絡ください。		硬いもの、噛みちぎる食べ物を受傷歯でかむのは避けてください。									
清潔	シャワー程度にします。		入浴を開始できます。									
その他	午前・午後の熱を測ります。38.5℃以上の場合は、ご連絡ください。											